

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 2 月 26 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203005		
法人名	特定非営利活動法人 もちもちの木		
事業所名	グループホーム 土橋のおうち		
所在地	広島市中区土橋町5番35号 (電話) 082-294-9324		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoNoCd=3470203005-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoNoCd=3470203005-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 3 年 2 月 26 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

スタッフ間の情報共有を確実なものとし、どうすれば心地よい居場所になるかを、日々の変化の中で話し合い対応を考えています。笑顔で過ごして頂くを目標に、自分たちでできることを、気持ちと知識で寄り添うケアを考え対応しています。地域の環境を利用し、散歩や買い物、地域行事への参加などを行い、地域の方との触れあえるような暮らしを目指しています。美容院へ行ったり、コンサートに出かけたり、できる限り在宅での生活を継続できるように工夫しています。又、日常では、暮らしの中に役割を持って頂き、できることで自分の生きがい、居場所を感じて頂けるように、認知症の進行と機能低下の予防になるような暮らしを考えケアプランになるように心がけ、スタッフと一緒に作成しています。入居者様と同時にスタッフも笑顔で働ける職場を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム土橋のおうちは、広島電鉄の土橋駅から徒歩5分で、近隣には緑豊かな公園や神社があり、散歩コースになっている。建物は、元旅館だった4階建ての1階をディサービス、2・3階をグループホームとして使用しており、階段には昇降機を取り付け、足の不自由な方を補助しています。玄関の壁面にホームの理念である「やさしい心 迷ったり 探さぬよう側にいるよ」を大きく掲げ、職員も利用者さんも目を通しておられる。食事は、本来のグループホームならではの3食とも手作りにされている。「利用者さんにとって、食事が楽しみなんですよ。」と言われ、手抜きをされない。各自の生活歴・趣味等の持続を大切にして、普通の暮らしが、出来るように支援を行っている。又、YouTubeで、グループホームの紹介動画も配信され、何事も挑戦され、開かれたグループホームと言える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「優しい心 迷ったり 探さぬよう側にいるよ」を理念に掲げ、お一人お一人の言葉に出来ない思いを理解する為に、情報を共有し、安心できる居場所になるように努めている。	職員は、理念に基づいて、利用者一人ひとりのケアの違いを理解し、ケアに沿って合っているかどうかを点検しながら、年1回、行われる「もちもちテキスト」の読み合わせを行ない、職員全員で共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍にあり、地域の行事には参加できなかったが、散歩などでお会いすると、挨拶をしてくださる等の交流はある。	地域の方々と共同募金会の事業である「西本川のむかしむかし」を今年度も神社に集合して交流されています。神社の由来の看板を立てられ、後々まで継承を望まれている。今は、町内会加入者は、2割位だそうです。希薄になりつつある町内の方々との交流を大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	本年は外出が制限されたが、入居前の暮らしに近いことが継続できるようにしている。コロナ禍以前は、コンサートに行ったり、知人に会いに行ったり、認知症になっても普通に暮らせる事を理解していただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	本年は文書により活動を報告させて頂き、文書によりご意見を頂けた。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、開催しているが、現在コロナ禍においては、書面にて運営推進会議の構成員の方に送り、ご意見を頂き、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	各種の手続きや、確認事項等で連絡を取っている。	介護保険更新時、出向いて現状報告している。又、運営推進会議の報告も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束の排除の理念及び方針」を掲げると共に、マニュアルを作成し、閲覧できるようにしている。又、定期的に資料配布して勉強している。日々のケアで適切なケアはないか、職員間で話し合っている。	毎月、研修を重ね、2～3ヶ月に1回、「身体的拘束適正化委員会」を開催している。職員は、身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が起こらないように、日々のケアを振り返っている。又、職員が不適切なケアに気づき、それを話し合える職場になるように配慮している。又、職員の心身の状態も観察し、業務の改善等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	2名の入居者様が利用されており、実践で学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	内容を分かりやすく説明し、質疑応答を受けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様とは、日々の関わりで、伝えられる方も、伝えられない方も、思いを汲み取るように努めている。ご家族様には、電話や手紙で状況報告し、御意向等を伺っている。	利用者本人に寄り添って介護する中で、思いをくみ取るようにしている。家族からは今、電話等で要望を聞き(振り込みの件・マッサージ治療・体操・散歩等)意見を反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	経営についても職員全体が把握できるように全体会議を開催している。日々の現場の意見は管理者会議で報告したり、サイボウズで情報を共有したり、意見を述べたりしている。	申し送り時やミーティング・カンファレンス時に意見交換している。(薬ケースの飲み残しの改善等)又、管理者へ直接メールをしたり、個人面談も行って、言い易い雰囲気づくりがあり、意見・提案等を協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に二度目標に対しての評価を行い、個々の努力や実績の把握に努めている。又、個々の希望に応じた時間や、働き方ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年度で研修計画し、スタッフのスキルアップに努めている。又、アセッサーから実技の指導も受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	オンラインでの研修の情報はサイボウズで流し、自分で参加決定ができるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	インテークでのアセスメントに加え、御家族様からの情報や、関係機関からの情報なども可能な限り収集し、御本人様の事を知る努力と思いを感じる努力をしている。理念である「そばにいるよ」を实践し、不安の解消と安心できる場であるということを知っていただく努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者様だけでなく、御家族様の思いにも耳を傾け、不安な事や要望を話しやすい雰囲気づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	急を要する案件はないか、必要な支援を見極め、他の事業所の紹介、利用なども含め柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として、尊厳を持って暮らして頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍にあり、面会の制限等もあるが、文書や電話にて状況を報告したり、ビデオ電話など利用し、御本人様や御家族様の絆が途切れないようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍にあり行動の制限はあるが、なじみの場に散歩に行ったり、初詣に行ったりなどしている	馴染みの人との関わりは、自由に交流されていたが、コロナ禍において、制限されている。そんな中でも近隣にある平和公園等、人通りの少ない時間帯に、馴染んだ散歩道を歩きながら、挨拶をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様の性格や趣味、状態等で、座る席も考慮する。厳密に言えば、位置だけではなく向きにも配慮し、落ちついて過ごして頂けるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	広報物や行事の案内などを行い、気軽に相談できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御自分の意思が伝えられない方も、スタッフ全員が普段の関わりの中で思いを汲み取るように努力している	日々の生活の中の会話等で、好きな事、喜ばれる事を職員は見つけ、情報共有して支援している。(料理づくり・ぬり絵・織い物・新聞を読むこと等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族様、利用されていたサービス事業者などから情報を提供して頂いている。御家族様には、生活歴の中等お聞きしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	御家族様にもご協力頂きながら、御本人様のこだわりや趣味嗜好、習慣など生活を把握する努力と、心身の現状の把握に努めている。グループホームでの生活にも取り入れ、混乱と不安解消に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	24時間の状況、変化等、シフトに応じて情報共有し、状況に応じた対応が臨機応変にできるように努めている変化があれば、御家族様にも報告し、状態の理解して頂く事と、思いを伺うようにしている。スタッフは担当制とし、1か月に1回のモニタリングと、カンファレンスで新たな課題などについて話し合っている	毎月、モニタリングを行い、日々の暮らしの中で本人が、したい事、又、課題等を話し合い、それを実現するために必要な事、GHでどう支援できるかを皆で検討し、全体の方向性を決めている。通常、6ヶ月に1回、見直している。	職員のケアプランに対する理解の差があり、情報共有したり、新任職員の勉強会等を持たれることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個別の経過記録と業務日誌、サイボーズと情報は常に共有できるように努め、スタッフの意見も反映した介護計画を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御本人様や御家族様の状況に応じて、デイサービス利用者様がグループホームへ入居等ご検討頂くこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターや警察の協力を得ている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	御家族様付き添いの場合には、状況説明し、医師には文書にて変化などの生活状況を説明し、現状を理解していただくように努めている。又服薬などについても疑問あれば電話などでお聞きしている。	内科・歯科は、協力医療機関から、週1回の方・月2回の方もあり、医療、健康面にも配慮がある。他科受診は、基本家族としているが、職員が対応する事もある。医師の24時間体応で、職員・家族にも安心感がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問時に加え、異変あった場合や、不安な事は訪問看護やデイサービスの看護師に報告、指示をもらう等している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時の情報の交換は常に行っている。又、入院先に行き、状態の把握に努めている。退院時のカンファレンスには参加して、退院時の諸注意等の指示を受けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期における対応についてのご希望をお聞きしている。支援が必要になった際には、再度ご希望をお聞きして、医師や訪問看護と連携し、チームで支援している。希望を伝えられる入居者様には自身の終末期についてお聞きしている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し意向を確認している。重度化した場合には改めて話し合い(医師・訪問看護師・家族・職員等)看取りについてホームで出来る体制を伝え、望まれる事を支援している。看取り経験あり。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訪問看護やデイサービスの看護師から指導を受けるなどして、学ぶ努力はしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練、避難訓練を年に2回実施している	年2回、消防訓練・避難訓練を実施している。避難経路、初期消火訓練等行い、全員の意識向上を図っている。災害時等の備蓄も準備している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いをはじめ、人生の先輩として常に敬う気持ちを忘れないようにしている	利用者のプライドを傷つけない接遇に気を付けている。(社会人マナー)言葉使いに注意し入浴やトイレ誘導も周りに配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で、自己決定して頂くようにしている。又日々の関わりの中で、表出できない思いなども把握できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースは大切にし、尊重している。日常生活も希望に添えるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様の好みや習慣を大事にしている。コロナ禍にあり、理容資格を持つスタッフが、定期的に散髪、毛染めなどを行っている。又化粧品や衣服の購入も好みに合わせて購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ禍にあり、一緒に買い物には行けないが、その方の能力に応じたやりたいことを、役割として手伝っていただいている。無理強いはない。	3食とも手作りで、献立を立てている。食堂兼リビングで、食事を作る音や匂いを感じながら、家庭的な雰囲気がある。時には、出前を取る事もある。利用者と一緒に、出来ることを調理や片づけを行い、食事が楽しみなよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状態の変化には、医師の指示により提供している。嗜好に関してもできるだけ柔軟に対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアをお一人ずつ状態、能力に応じたケアで行っている。週に1回の訪問歯科の利用もしている。状態の変化やケアの方法などの指導して頂いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンの把握に努め、その方の応じた声掛けや衛生用品の使用をしている。日中はできるだけトイレで排泄して頂くように努めている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導をして、出来るだけトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録により摂取量を把握し、状態に応じた食事形態を提供している。日中の活動の見直しや生活リズムと整えるなど、原因を探り対応している。医師にも随時報告し、指示して頂いている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者様の要望を優先させながら、体調を見て入浴して頂いている。状態に応じて、シャワー浴、部分浴、清拭等に対応し、感染予防、清潔保持に努めている。拒否のある方も、気持ちよく入って頂くために声掛けなど工夫している。	入浴は週2～3回とし、利用者の体調を確認して、出来るだけ気持ちの良い気分で入られるよう対応している。時には、職員2人体制で、浴槽に入ってもらっている。今は、バスリフトを導入され、職員の負担も軽減されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個別の要望や状態に応じた休息の時間を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診後や薬の変更があった場合には申し送りや記録にて共有している。いつでも見れるように説明書も保管している		

グループホーム 土橋のおうち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	御本人様の趣味や要望を尊重し、自尊心を傷つけないように能力に応じた役割や楽しみを継続して行えるように工夫している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	機能低下予防、気分転換を兼ねて散歩を行っている。コロナ禍にあり外出が制限されている	今までは、地域の盆踊り・地蔵尊祭り・地域の行事等に参加していたが、コロナ禍においては、全て中止となっている為、外出する事が難しくなっている。時には、気候や時間帯を見て、近くの平和公園まで、散歩に出かけている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	現在はお金を管理されている方はいないが、もし希望があれば、御家族様の意向も伺いながら、能力に応じた管理をしていただく支援をしていく		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	ご希望に応じるようにしている		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	トイレが近いので消臭には配慮している。デイサービスの利用者様の通行もあるので、混乱されないように席の向きなども配慮している。季節ごとの飾りや作品なども飾っている	今は、特に換気に配慮しており、加湿器等、気を配っている。机や椅子を上手く配置して、日中は、パズルをしたり、ビデオを見たり、出来る方は、壁面に飾る七夕飾りやクリスマスツリーの飾り等を作って季節を感じて貰っている。居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	好き嫌いや状態に応じた席の配置をしている。共有空間での一人になることは難しいが、居室で過ごすなど自由に過ごして頂いている		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時になじみの家具を持参して頂いたり、自宅での家具の配置を参考にしている。好きなものやこだわりの物も持参して頂いている。	自宅で使われていた家具、テレビ、ラジカセ、テーブル、椅子、置物、家族写真、ポスター等、自由に持ち込み、好みの位置に配置され、思い思いに過ごせるよう工夫されている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	張り紙による確認ができるようにしている。又、見守りが必要な方は、御家族の同意を得てセンサーを設置し、安全に配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

グループホーム 土橋のおうち

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 土橋のおうち

作成日 令和3年2月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	不適切なケアを理解し、虐待に移行しないようにする	スタッフ同士でケアを振り返り、不適切なケアをなくしていく	①虐待、身体拘束、不適切なケアの勉強会 ②ケアを振り返る時間を作り、言い合える関係性づくり	1年
2	26	ケアプランの理解が出来ていないスタッフがいる	日々の関わりの中で入居者様の思いや状態を理解し、ケアプランに反映できる	①情報共有の徹底 ②課題抽出表の提出の徹底	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。